

レンズスター LS900 の総合力

日時 平成26年11月14日(金) 12:35-13:35

会場 第13会場 (神戸国際展示場 2号館2F 2A会議室)



座長 **大鹿 哲郎** 先生 (筑波大学)

眼内レンズ挿入術後の屈折誤差を減らす試みには大きく二つあり、一つは眼軸長をより正確に測定すること、もう一つは眼内レンズ度数計算式をより良いものにするることである。

眼軸長については、超音波 A モードでの測定が長らく主流だったが、1990 年頃に光学式である IOLMaster が導入され、一気に精度が向上した。そして IOLMaster から 10 年遅れて、レンズスター (LENSTAR LS900) という第二世代のレーザー眼軸長計測装置が登場し、欧米では広く普及している。レンズスターは前房深度や水晶体厚などより多くの情報を取得できると共に、最新鋭のインターフェースと計算式を備えている。

度数計算式については、Fyodorov 式などの第一世代、SRK 式、SRK-II 式、Binkhorst 式などの第二世代を経て、SRK/T 式を初めとする第三世代が長らく使用されてきた。第三世代には他に Holladay 式、Hoffer Q 式などがある。そして現在注目されているのが、第四世代と呼ばれる Haigis 式、Olsen 式、Holladay II 式である。これらは術前の前房深度や水晶体厚の測定値を計算に用いることから、レンズスターとの相性が非常に良く、術後成績の向上に寄与することが期待される。

レンズスターは非常に洗練されたプラットフォームおよびソフトウェアを備えており、臨床の現場での使い勝手が良く、応用範囲が広い。本セミナーでは 3 名の先生方に、トリーク眼内レンズや屈折矯正手術後など、種々の臨床場面におけるレンズスターの使いこなし、そしてその実力について解説して頂く。



演者 **稲村 幹夫** 先生 (稲村眼科クリニック)

トリークにも強い光学式眼軸測定装置、
レンズスター LS900



演者 **飯田 嘉彦** 先生 (北里大学)

屈折矯正手術後の
度数計算へのアプローチ



演者 **山岸 和矢** 先生 (ひらかた山岸眼科)

レンズスター LS900 Alive
— プラスワンよりオンリーワンへ